

特筆すべき成果（グッドプラクティス）

1. 国際化推進体制の整備

○平成 27 年度までは国際担当理事と国際交流推進機構長が実質的に並列する形態で教育研究双方に係る国際交流体制を採っていたが、平成 28 年 4 月からは、WINDOW 構想に基づく総長のイニシアチブの下、国際戦略に係る施策の企画・立案を主に行う**国際戦略本部**を設置した上で、国際的な学生交流事項を主に審議する**国際教育委員会**及び国際研究交流活動を主に審議する**国際展開委員会**を併置した。これにより、トップマネジメントによる**国際戦略運営体制**を確立した。

○加えて、学内組織の縦割りを排除し、国際担当部署と、企画・広報・IR 推進・学術研究支援等担当部署を横断的に繋ぎ、ビジョンと情報の効率的な共有を行うために、平成 28 年 4 月に国際戦略本部の下に**国際連携プラットフォーム**を設置した。

2. ジョイントディグリーの新規開設、ダブルディグリーの拡大

○本学の文学研究科とドイツ・ハイデルベルク大学トランスカルチュラル・スタディーズ・センター (HCTS) の間で、平成 29 年 3 月に文部科学省へ「**国際連携文化越境専攻(修士課程)**」の設置の認可申請を行った。本専攻の設置が認可されれば、**国内初の人文社会系ジョイントディグリー専攻**となる。また、**医学研究科とカナダ・マギル大学**に関しても、平成 29 年度中に国際連携専攻（博士課程）の設置の認可申請を行うべく詳細の交渉を進めている。

○ダブルディグリーについては平成 26 年度までに 5 プログラム存在していたところ、平成 28 年～29 年 4 月に**新たに 8 プログラム**の協定が締結された。平成 28 年度末までに、本学側で **9 名**、相手大学側で **21 名** の学生がダブルディグリー参加学生として登録され、修了者は本学側学生が **4 名**、相手大学側学生 **12 名** となった。さらに、博士論文の共同指導に基づく**共同学位（コチューレル）**の枠組みの導入を検討している。

3. 国際高等教育院における取組

○全学共通教育の企画、調整及び実施等を一元的に所掌する国際高等教育院において、外国人教員 100 人の雇用を目指し、平成 29 年 3 月末時点で **74 名**を採用。国際高等教育院において提供される**英語による教養・共通科目の数も着実に増加**した（平成 26 年度 114 科目→平成 27 年度 171 科目→平成 28 年度 225 科目）。

○平成 26 年度より新入生で外国語として英語を選択した者を対象に **TOEFL-ITP 試験を年二回実施**している。平成 28 年 12 月の試験結果から、**英語力の維持・向上**が確認されている。

○平成 28 年に**国際人材総合教育棟を新設**。学生が自習等で使用できる**スピーキングコーナー、カンパセーションルーム**や、学内で TOEFL iBT が受験できる**CBT ルーム**を備え、語学自習用の機材の貸出、英語ライティング-リスニングリスニング担当教員による**ワークショップ**、TOEIC 対策講座等を行っている。

○平成 28 年度より、「英語のライティング-リスニング」授業を、20 人を基準とする**少人数クラス**で運用している。この科目のすべての授業でリスニングの課題を毎週、課すために同院附属国際学術言語教育センター (i-ARRC) で整備した**国際言語実践教育システム (GORILLA)**を活用した。また、平成 28 年 12 月に i-ARRC では外国語の課外学習支援として、**新たにポータルサイトを設置**して外国語学習に関する情報提供を開始した。

4. Kyoto iUP、吉田カレッジ構想

学部教育の国際化をさらに推進するため、平成 29 年度より **Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP、吉田カレッジ構想)**を実施することを機関決定した。Kyoto iUP (吉田カレッジ構想) は、国内 18 歳人口の減少が避けられない状況の下、本学の教育研究を質・量両面で維持し、更に発展させるため、**優秀で志高い留学生の学部段階での受入を拡充**することを主な目的とした学士課程の国際教育プログラムである。このプログラムでは**入学段階での日本語能力は不問とし、入学決定後に徹底した日本語教育を継続的に実施**しながら、**英語による教養・共通教育を経て、専門教育段階から日本語で講義等を受講**し、グローバル展開を図る日本企業へ留学生を輩出、日本社会への定着を図る。併せて、**国際社会で活躍する日本人学生の養成を強化**するため、**留学生とともにグループワークやプロジェクト等を行う科目や英語による教養科目の履修、海外インターンシップ・長期留学を必修とする日本人学生履修コース**を設ける。これにより、本学学生のすべてが、多面的な価値観が共存するなかで、幅広く深い教養と専門的学芸を涵養するとともに、多様な価値観や異文化を理解する力やコミュニケーション力、俯瞰力などの涵養を促進する国際性豊かなキャンパス環境を創造する。（平成 29 年 10 月より第一期生がプログラム開始予定。）